No.

平成13年度

特別案件等調査報告書

―薬物乱用防止啓発活動（日米協力）コース―

平成13年10月

国際協力事業団
八王子国際研修センター

八王セ
JR
01 - 01

序　　文

本報告書は、国際協力事業団が実施している、集団研修コース「薬物乱用防止啓発活動（日米協力）」に参加した研修員に対するフォローアップ、研修ニーズの把握を目的として、帰国研修員の所属機関および関連機関を訪問し、当該分野の派遣国の現状、研修効果の評価研修に対する派遣国のニーズ、第三国研修の可能性などを調査するため、平成１３年９月４日から９月１３日まで、カンボディア、マレイシアに派遣された調査団の調査結果をまとめたものです。

本報告書が、当該研修分野におけるカンボディア、マレイシアの現状、帰国研修員の活動状況などについて、関係各位の一層のご理解をいただくための一助となり、今後の研修員受入事業の改善に資することができれば幸いです。

なお、本調査団の派遣に際しご協力をいただいた外務省、厚生労働省、東北公益文科大学、並びに現地においてご指導とご協力をいただいた在外公館および関係機関の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成１３年１０月

国 際 協 力 事 業 団
八王子国際研修センター
所 長　　木下　建

目　　次

Ⅰ　調査概要

１．目的 1
２．団員構成 1
３．派遣国及び期間 1
４．調査日程 2
５．面談者 3

Ⅱ　調査対象コースの概要

１．コースの目的 5
２．コース設立の経緯 5
３．コースの到達目標 5
４．研修員受入実績 5

Ⅲ　調査報告

１．はじめに 7
２．報告（カンボディア） 7
３．報告（マレイシア） 9
４．研修に対する提言 １１

Ⅳ　添付資料

１．帰国研修員名簿 １５
２．質問表 １７
３．質問表に対する回答集計（帰国研修員） ２９
４．セミナープログラム ４０
５．セミナー出席者 ４１
６．セミナーレジュメ ４３
７．調査期間中に相手国に提出した中間報告書 ５５

カンボディア

国家薬物対策庁ヒアリング

公開セミナー

マレイシア

保健省医薬局ヒアリング

公開セミナー

Ⅰ　調査概要

１．目的

（１）帰国研修員、及びその所属機関が有する技術的問題点に対し、助言を与えるとともに、帰国研修員のみならず、当該国において、薬物乱用防止啓発活動に関係する行政官、当該分野のNGOで活動する者を対象とした公開セミナーを開催し、薬物乱用防止啓発活動の最新情報の提供を行う。

（２）帰国研修員の帰国後の動向を調査し、日本での技術研修の効果を評価し、また、現地における関係機関等への波及効果を把握する。

（３）派遣国の当該分野の人材育成計画、候補者選定プロセス、技術水準、技術的問題、研修ニーズの調査を行う。

（４）第三国研修の実施可能性を調査する。

２．団員構成

（１）団長・総括

高橋　英彦　　東北公益文科大学　教授

（２）技術指導

沖　郁二郎　　厚生労働省医薬局監査指導・麻薬対策課　麻薬係長

（３）研修計画

沢田　博美　　国際協力事業団　八王子国際研修センター　研修課

３．派遣国及び期間

（１）派遣国

帰国研修員が２名のカンボディア、６名のマレイシアへ派遣することとした。

（２）期間

派遣期間は、平成１３年９月４日から平成１３年９月１３日までとした。

４．調査日程

９月４日（火）　東京□ →□ ホンコン□ （ＣＸ５０１）
ホンコン→プノンペン（ＫＡ２００）

９月５日（水）　JICA事務所にて打ち合わせ
日本大使館表敬訪問
カンボディア開発委員会ヒアリング
保健省医薬食品局ヒアリング
保健省医薬食品局帰国研修員ヒアリング

９月６日（木）　プノンペン市保健部ヒアリング
国家薬物対策庁ヒアリング

９月７日（金）　公開セミナー開催
JICA事務所報告

９月８日（土）　資料整理

９月９日（日）　プノンペン□ →□ クアラルンプール(MH７５５）

９月１０日（月）　JICA事務所にて打ち合わせ
保健省医薬局ヒアリング

９月１１日（火）　内務省薬物管理局ヒアリング
内務省薬物管理局帰国研修員ヒアリング
NGO「Persatuan□ PENGASIH」ヒアリング
NGO「Persatuan□ PENGASIH」帰国研修員ヒアリング

９月１２日（水）　公開セミナー開催
日本大使館報告
JICA事務所報告

９月１３日（木）　クアラルンプール　→　東京（MH０９２）

５．面談者

（１）カンボディア

1.　Council for Development of Cambodia

Mr. Phea Vannden, Deputy Secretary General

Ms. Heng Sokunthea, Director, Bilateral Aid Coordinate Department

Ms. Phan Veunida, Staff, Bilateral Aid Coordinate Department

2.　The Ministry of Health

Prof. Eng Huot, Director General for Health

Dr. Tea Kimhay, Deputy Director, Department of Drugs, Food, Medical materials and Cosmetics: Ex-participant

Ph. Ty Kim Suor, Deputy Chief of Essential Drugs Bureau, Rational use of Drugs coordination unit, Department of Drugs and Food: Ex-participant

3.　Department of Health, Municipality of Phnom Penh

Dr. Veng Thai, Director, Health Department

Mr. Yim Yann, Chief, Drug Office, Health Department

4.　National Authority of Combating Drugs

Mr. Meas Samith, Director, International Cooperation Department

5.　United Nations Office for Drug Control and Crime Prevention

Mr. Graham Shaw, International Programme Officer, Regional Centre for East Asia and the Pacific Liaison Office

Mr. Sovann Tith, National Programme Officer, Regional Centre for East Asia and the Pacific Liaison Office

6.　在カンボディア日本国大使館

篠原　勝弘　公使参事官

渡辺　祐二　二等書記官

（２）マレイシア

1.　Pharmaceutical Services Division, Ministry of Health

Mr. Mohd Zin Che Awang, Director

Dr. Lai Lin Swee, Deputy Director

Mr. Shi Aide Abdullal, Principal Assistant Director

Dr. Noral Ashikin Tahya, Medical officer

Dr. Zakiah Isah, Head of Specialized Diagnosic Centre & Herbal Medicine Research Centre

Dr. Hajah Mhip, TPP (K)

2. National Drug Agency, Ministry of Home Affairs

Mr. Wan Ibrahim Bin Wan Ahmad, Deputy Director General

Mr. Harith Fadhilah, Chief Assistant Director (Prevention)

Mr. N. Sasidharan, Assistant Director

Mr. Abd. Rashid Mat Adam, Director for Prevention, Planning & Research

Ms. K Hor Phaik EE, Assistant Director (Work Place)

Mr. K Hor B. Azu Talib, Assistant Director (Field Unit)

Ms. Savithri Devi, Assistant Director (International)

Mr. Izhar Abu Talib, Assistant Director, Field Service Unit: Ex-participant

Mr. Ishak Mohd Salleh, Director, NDA Pahong: Ex-participant

Ms. Sharifah Aini Syed Bab, Commandant

3. Persatuan PENGASIH

Mr. Mohd Yunus Pathi, President

Mr. Khairuddin Mahmud, Assistant Hon. Treasurer

Mr. Abdullah Md Nor: Ex-participant

4. 在マレイシア日本国大使館

楠　勝浩　一等書記官

垣下　禎裕　一等書記官

II　調査対象コースの概要

１．コースの目的

アジア地域の各国において薬物乱用防止啓発活動のリーダーとなる人材を育成することにより、アジア地域の麻薬対策の向上に寄与することを目的とする。

２．コースの設立の経緯

近年、麻薬対策について従来の取り締まりに加え、一般への乱用防止啓発活動が重要であることが、国連麻薬委員会などの場を通じて世界的に叫ばれているが、アジア地域諸国では未だ啓発活動が立ち後れており、啓発活動の中核となる人材の育成が急務となっている。

また、平成５年１１月、我が国と米国政府との間で、「地球的展望に立った協力のための共通課題」（コモンアジェンダ）がとりまとめられ、この中で麻薬対策は、人類社会に対する挑戦への対応として、その重要性がうたわれた。

３．コースの到達目標

啓発活動に関する全般的な知識及び活動の具体的方法を紹介することにより、帰国後自国において啓発活動の中核になり得る情報を修得せしめる。

４．研修員受入実績

コースが設立された平成７年度から平成１３年度までにおける研修員受入実数は、次頁の一覧表のとおりである。

国別年度別受入実績

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	計
バングラデシュ	1	1					1	3
ブータン			1					1
中国		1		1	1	1	1	5
カンボディア				1	1		1	3
インド	1							1
インドネシア	1	1		1	1	1		5
ラオス		1	1	1	1		1	5
マレイシア	1	1	1	1	1	1	1	7
モルディヴ					1			1
モンゴル			1					1
ミャンマー			1	1	1	1	1	5
ネパール	1	1	1	1				4
パキスタン			1	1				2
パラオ					1			1
フィリピン	1	1	1	1	1	1		6
シンガポール	1			1				2
スリ・ランカ					1	1	1	3
タイ	1	1	1	1	1	1	2	8
ヴィエトナム		1	1			1		3
キルギス		1						1
計	8	10	10	11	11	8	9	67

III　調査報告

１．はじめに

今回の評価対象国がASEANの新旧加盟国の中でも状況がきわめて対照的な２国であったことは、後述の提言を導き出す上で参考になるところが大きかった。

すなわち、薬物乱用対策については、当該国における薬物乱用状況の深刻度、社会状況、乱用される薬物の危険度等が大きく作用するが、ようやく社会秩序の維持が可能になりつつあるカンボディアにおいては、乱用薬物の需要供給両面における対策がようやく始まったのに対し、目ざましい経済発展を遂げつつ、官民ともに薬物問題にも多大の関心を払ってきたマレイシアにおいては、後述のように薬物乱用に対する多角的な政策を網羅する各分野の施策がそれぞれ実施されている。

このような格差は、もとよりカンボディアとマレイシアの間においてのみ観察されるのではなく、その程度は違うが、本研修が対象としているアジア諸国間において、多かれ少なかれ存在するものであり、そのことが、研修をはじめ、わが国が援助し得る諸対策の今後の内容を考える上での重要な基盤となるものである。

上記を前提として、以下報告ならびに提言を行いたい。

２．報告（カンボディア）

（１）一般事情について

政治的に安定してきたカンボディアにおいては、国の基盤整備はもとより、多くの分野において発展途上にあるが、薬物乱用対策においてもようやく始まったばかりの段階にある。

人口構成を見ると、若年層の人口が多く、仕事のない若年層人口も多いため、薬物乱用が広まる可能性が高い。また、薬物乱用防止啓発活動の場の１つとして考えられる学校であるが、中退者が多く、啓発活動の役割を担うことは容易でない。

（２）□　薬物乱用状況

薬物乱用がどの程度進行しているかを計る統計や信頼すべき指標は乏しく、訪問した各関連機関や面談したＪＩＣＡ派遣専門家より聴取した内容に頼らざるを得ないが、聴取し得たカンボディアの薬物乱用状況は概ね以下の通りである。

・都市のストリートチルドレンの間で有機溶剤（主にゴム糊）が乱用されている。

・大麻は伝統的に食品のスパイスとして用いられ、一部で乱用されており、密輸出されている。

・ATS、特にエクスタシー、錠剤型覚せい剤の乱用がプノンペン都市部のディスコ等で始まっている。

・カンボディア北西部山岳地帯のタイ国境付近において、ATSの密造工場が在り、同山岳地帯より開けた南シナ海に面した海岸線付近は、薬物の密輸に使われている。

（３）薬物対策組織

内務省所管のNational Authority for Combating Drug（NACD,１９９５年設置）が近年強化され、その比較的強いイニシアチブとコーディネーションの中で警察、保健省、教育省などが、薬物対策の各分野を担当している。しかし、司法面における人的資源は明らかに欠如しており、薬物取締法を正確に理解し、判断できる司直は限られるばかりで、取締を行う警察においても、薬物そのものに対する知識が不足している。過去研修員２名を送った保健省医薬食品局においては、ＷＨＯによる必須薬品供給計画の薬品適正使用教育を実施しているが、大衆を対象とした教育活動を、不正薬物対策にまで拡大しようということについて意欲的である。ＮＡＣＤをはじめ、各関係省庁においては、人材、知識ともに発展する余地が大いにあるが、資金の手当てが不足している。ただし「意欲先行型」であることは、今後の発展可能性につながるものではある。

（４）乱用防止に係る状況

上記のごとく、その計画ならびに実施を担当し得る人材に乏しい。教育、啓蒙についてまで、総合的な計画作成能力が欠如している。識字率は４割弱であり教材、啓蒙材料（印刷物等）の準備が進んでいない。そして、計画・実施に向けては、さらに多くの人材が求められる。また、学校教育の段階においては、いわゆるドロップアウト率が高いこともあり、薬物乱用予防教育をどの学年で行うべきかに関しては、検討が必要である。
いわゆる地域社会（Community）を対象とするものについては、実施する機会を設けることが課題であり、その中での知識及びメッセージの伝達者としては、社会において比較的高い尊敬を受けているとされている先生・僧及び長老（アチャー）の活用も考えられ、これらのグループへの教育が必要である。マスメディアの利用ならびに映像の使用は、将来のステップとして検討されていいと考える。

（５）治療ならびにリハビリテーションについて

薬物防止の第２段階である治療ならびにリハビリテーションについては、人材・資金（施設）の手当がつかず、今後の課題となる。ストリートチルドレンを対象とした施設（約５０名収容）が、プノンペンにおいて、NGO及びユニセフの援助を受けて活動している。このようにNGOの活動は、国外からの援助を受けて、ようやく軌道に乗りつつあるようである。

（６）国際協力について

薬物乱用防止に係る総合的な支援として、７月にプノンペンに連絡事務所（リエゾンオフィス）を開設したUNODCPが、乱用実体の把握、ハイリスクグループの特定等について調査を開始している。WHOの代表事務所は、正規医薬品の適正使用教育について保健省と協力しており、ユニセフの同事務所は、ＴＶスポットを通じて、教育プログラムを支援している。また、上記ストリートチルドレン対象のセンターを援助している。一方、２国間援助の中では、他の多くの分野と同様に、わが国の果たしている役割が顕著であり、NACDには、JICA専門家が派遣されている。

（７）研修の評価

参加者（２名）はともに、本JICA研修が非常に役立ったとしている。特に、啓蒙活動と学校教育現場の見学、病院訪問などの実地に触れたことを、有用としてあげている。当方の評価としては、

１） 研修後、今日に至るまで、若干の昇進を除き、同分野の業務を担当している。

２） 上記のごとく、実際には啓蒙・教育活動がこれからという事情の下で、その準備に向けての意欲を示している。すなわち、研修はいい意味での刺激になっていると考えていい。

３） 地方へ医薬品の正しい使い方等に関する講演に赴いた際、研修で得た乱用薬物に対する知識の普及に努めている。薬物乱用防止活動の計画と実行については、今後の課題であるが、すでに職場内において機会をとらえ、研修で得た知識のフィードバックを行っており、その役割を果たしている。

３．報告（マレイシア）

（１）一般事情について

官民ともに薬物問題に真摯に取り組み、供給遮断政策としては、旅行者も麻薬密輸には死刑に処する旨警告する等厳罰主義で臨む一方、需要削減策においては、一般に対する薬物の一次的予防啓発運動、薬物乱用者に対する二次的リハビリテーションを政策に掲げ、国立のリハビリテーションセンターはその収容能力が約１万人と整備されており、薬物中毒者を強制収容した上で治療を施す等、多角的な施策が実施されており、薬物に対する政策については進んでいる。

（２）□ 薬物乱用状況

当該国での主要な乱用薬物はヘロイン等のあへん系麻薬であり、その他、正規、不正販売を含めて、コデイン含有の咳止めシロップの乱用が進んでいる。乱用の地域別特徴

は、タイ国境を含む北部州において生あへんとコデイン乱用が、クアランプールを含む中部州ではシャブ、ガンジャ、ヘロインの乱用が進み、僻地では購買能力が乏しいため薬物乱用は進んでいない。近年カートの乱用が始まり、法整備を含めて規制を検討しているが、鑑定法が確立されていない。エリミンを主にジアゼパム、メタゾラム等の向精神薬乱用も進んでおり、クアランプールではアンフェタミン型覚せい剤（ATS）の一種であるエクスタシーの乱用が深刻になってきている。

（３）薬物対策組織及び政策

内務省所管のNational Drug Agency （NDA） が、乱用薬物対策について、保健省、警察等の政府機関と調整し、供給遮断、需要削減政策を担っている。同機関は、政府機能移転に伴い、本年４月プトラジャヤ州に移転している。

（４）乱用防止に係る状況

薬物対策の骨子は、予防、治療及びリハビリテーション、取締り、国際協力である。当国では、麻薬中毒者数が国民全人口の約１％に至る約２０万人登録されている。薬物対策の具体的目標として、２０１５年までに薬物中毒者数を現在の１割に減らすとしており、「ドラッグ　フリー　マレイシア」というスローガンを掲げている。

薬物乱用予防教育は、米のストライド方式を採用した学校対象の薬物教育、ＩＬＯの協力を得た職場対象予防啓発、及び宗教指導者を活用した地域対象の予防啓発活動が行われている。

（５）治療ならびにリハビリテーションについて

あへん系麻薬中毒者のリハビリテーションプログラムは進んでいる。警察に逮捕された麻薬中毒者は、採尿検査を受け、陽性を示すと、２年以内の期間でリハビリテーションセンターに強制収容され、教育や職業訓練を受ける。薬物からの離脱期において、特別の薬物療法等は行わず、コールドターキーを採っている。薬物の再犯率は約７０％と高い。

（６）研修の評価

参加者（全６名中、面会できたのは４名）は、ともに本JICA研修が非常に役立ったとしている。当方の評価としては

１） 研修生は、研修後今日に至るまで同分野の業務を担当している。

２） 研修生の研修の対する共通した評価は、予防啓発プログラムの立案、実行に役立った、研修で得た幅広い知識が予防啓発に関する講演に役立った等であり、実際に帰国後の業務に役立っている。

３） 研修で得た知識の普及については、職場内において機会をとらえ、研修で得た知

識のフィードバックを行っており、その役割を果たしている。

４） 今後の研修について、全員がマレイシアで流行しつつあるATS（アンフェタミン型覚せい剤）とりわけ「エクスタシー」の乱用を挙げ、その治療法や対策を研修に盛り込んで欲しい旨、述べた。

４．研修に対する提言

（１）東京における研修の評価

東京における従来型の研修は、やや総花的ではあるが、日米の比較、各国から参加の対策の異なる国からの研修員間の相互学習機会が豊富であること等の利点があり、また、薬物乱用の予防啓発活動に対する幅広い知識を得られるので、今後とも有用と考えていい。

（２）研修プログラムの発展

これまでに述べてきたようなニーズの違いを念頭においた、プログラムの一部改正を検討することを提言したい。例えば、日程の中にもう少し分科会の機会を増やし、従来よりもグループ学習機会を増やすことが挙げられる。つまり、全体学習プログラムとグループ学習（選択制）のプログラムに分ける。グループ学習内容のテーマとしては、特に「ATS対策」に絞るもの、「学校教育」「教材開発」「人材開発」「治療・リハビリ」等、全体学習プログラムでも行うが、さらに深く学習するものを準備してはどうかと考える。

（３）第三国研修の可能性

地域研修のメリットは１国から多数の参加者を呼ぶことができる点である。

地域研修にはいくつかのグルーピングが考えられる。すなわち、a）同類の課題を抱えているもの、b）言語文化による分類、c）地理上の条件による分類、等が考えられるが、最も意味があるものはa）である。a）についてはニーズが同種なので、研修プログラムが組みやすく、かつ直接的に有効である。ただし、ここで特に提案したいのは、地域研修を実施する優先順位を付けると、薬物対策が比較的初期段階にある諸国のレベルアップに対する援助である。例として、アセアン諸国では、カンボディア、ヴィエトナム、ラオス、ミャンマー、のグループが挙げられる。この場合、開催地等の案として、A）開催地は上記４ヶ国中のひとつ、B）アクセスの便利なKL、バンコク、シンガポール、が考えられる。慎重にではあるが、タイ、マレイシア、シンガポールからの講師の起用、なども考えられる。また、今回の調査対象地域外ではあるが、SAARC（南アジア地域協力連合）諸国については、 アセアンほど国家間格差が大きくないので、地域研修を行う

場合は１グループで行うことは可能と考える。一方、太平洋諸国については問題規模が小さいので、地域研修の必要性は少ない。

なお、研修の内容として考えられるのは、下記のとおりである。

イ）教育、啓発プログラムの作成とその普及

ロ）教材、啓発材の作成の実際

ハ）社会（コミュニティ）を対照とするものについて、実務組織の育成と実証のマニュアル作り

ニ）治療リハビリエーション・プログラムの作成

ホ）実施組織の育成

加えて乱用薬物についての適切な説明などが望まれるところである。

（４）第二国研修の可能性

過去の研修員等を起用し、地方職員やNGO職員を対象に、日本国内で研修員が拾得した知識や技術を、効果的にフィードバックし、広めるために、国内研修を行う。講師選定においては、相手政府に任せるのではなく、現地JICA事務所と共に選定を行う必要があるであろう。

その際の可能性としては、下記の２つが考えられる。

１） JICAならびに日本側関係機関（以下JICA側）の援助の下で実施

２） JICA側との共催：この場合、一般的には、地域又は当該政府機関が適当と考えていいが、状況によってはNGOも候補として考えられる。

いずれにせよ、かかる実施機関の選定はプログラムの成否にかかるので、充分な検討が必要である。協力内容の基本案は日本側で作成し、日本ないし外国からの講師についてはJICA側が人選を行うべきである。教材についても、同様に、基本案は日本側で作成すべきである。

Ⅳ　添付資料

１．帰国研修員名簿

２．質問表

３．質問表に対する回答集計（帰国研修員）

４．セミナープログラム

５．セミナー出席者

６．セミナーレジュメ

７．調査期間中に相手国に提出した中間報告書

１．帰国研修員名簿

カンボディア

名前	参加年度	帰国時所属先	所属先住所	所属先電話番号
Mr. TY Kim Suor	1998	MINISTRY OF HEALTH	NO.8, STREET ONG POKBIS PHNOM PENH	855-23-880696
Ms. TEA Kim Chhay	1999	MINISTRY OF HEALTH	NO.8, STREET ONG POKBIS PHNOM PENH	855-23-880248

マレイシア

名前	参加年度	帰国時所属先	所属先住所	所属先電話番号
Mr. Nik Mohamed Bin DAUD	1995	AGENSI DADAH KEBANGSAAN NEGERI KEDAH DARUL AMAN	TINGKAT 3, MENARA PELADANG JALAN TELOK WANJAH, 05200 ALOR SETAR, KEDAH MALAYSIA	604-7302535
Mr. IZHAR Bin Abu Talib	1996	National Drug Agency Ministry of Home Affairs	Fifth Floor Zaza Pekiling Jalan Tun Razak 50400 Kuala Lumpur	34428044
Mr. ISHAK Mohd Saleh	1997	MINISTRY OF HOME AFFAIRS	3RD FLOOR BLOCK K DAMANSARA TOWN CENTRE, 50546 KUALA LUMPUR	2542533
Mr. Hilal Bin HAJI OTHMAN	1998	MINISTRY OF HOME AFFAIRS	LEVEL 31, KOMTAR 10000 PALAU PINANG	04-2500801
Ms. Sharifah Aini Bt SYED BAB	1999	NATIONAL NARCOTICS AGENCY	LEVEL 3 BLOCK K PUSAT BANDAR DAMANSARA KUALA LUMPUR	03-2542533
Mr. Abdullah bin MD.NOR	2000	PERSATUAN RENGASIH MALAYSIA	NO.3201-A JLN SYERS BUKIT TUNKU 50480 KUALA LUMPUR	03-6513179

２．質　　問　　表

QUESTIONNAIRE (1)

To the Ex-Participants of the Group Training Course In Drug Abuse Prevention Activities at Japan International Cooperation Agency (JICA)

The Follow-up Team would like to ask you some questions to learn from you.
The purposes of this survey are the following:

(1) To find out how and to what extent the training course has influenced on your work.
(2) To discover what kinds of problems and needs you may be having in your field.
(3) To hold an open seminar on the relevant theme.

Please answer the following questions. Your cooperation will be highly appreciated.

1. GENERAL QUESTION

1-1. Full Name: _____

_____

1-2. Office Name: _____

_____

Office Address: _____

_____

Telephone Number: _____

Facsimile Number: _____

1-3. E-mail address: _____

1-4. Year of Participation: _____

1-5. Are you still working in drug abuse prevention activities?

☐ Yes ☐ No

1-6. Did your participation in the training course lead to your promotion?

☐ Yes ☐ No ☐ don't know

Please write your Employment Record after completion the training course in Japan.

Duration	Position	Organization
Before participation After participation		

1-7. Please draw a chart of your present organization, indicating your position. (If available, please attach an organization chart indicating number of personnel in each section, division and department.)

Organization Chart

1-8. Please briefly describe your duties at the present post.

_____

_____

_____

1-9. Please describe any problems and difficulties you face at present.

_____

_____

_____

2. QUESTIONS ON THE GROUP TRAINING IN JAPAN

2-1. Has the training course been useful for your work in your country ?

☐ very much ☐ fair ☐ not at all

How?

_____

_____

_____

_____

2-2. Have you ever had any opportunity to disseminate what you have acquired in the training?

☐ Yes ☐ No

If yes, to whom? How?

☐ colleague ☐ training course ☐ workshop

☐ seminar ☐ other _____

Who organized/provided the opportunity ?

_____

2-3 What was the most useful program in the training course to you? Please specify.

_____

_____

_____

2-4. Please state the procedure of your application for the training.
(Procedure)
1) How were you selected by your department ?

_____

_____

_____

2) How did you come to know the training course?

_____

_____

_____

2-5 Who practically authorized your participation in the training course?

_____

_____

_____

2-6 Did you find any difficulty in your application procedure? If any, please state them.

_____

_____

_____

2-7 Have you attended any other training courses on the same subject in your country or abroad?

☐ Yes ☐ No

If yes, please answer the following items.

Name of the Course	Duration of the Course	Institution / Place	Sponsor / Organizer

3. IMPROVEMENT OF THE GROUP TRAINING IN JAPAN

3-1 Do you have any proposal or suggestion on the following items for the future improvement of the training course which you participated in?

1) Duration

☐ too long ☐ about right ☐ too short

2) Lectures

Lecturer

☐ good ☐ fair ☐ poor

Textbooks

☐ good ☐ fair ☐ poor

Reference material

☐ good ☐ fair ☐ poor

3) Practice (if applicable)

Instructor

☐ good ☐ fair ☐ poor

Facilities

☐ good ☐ fair ☐ poor

Equipment

☐ good ☐ fair ☐ poor

Materials

☐ good ☐ fair ☐ poor

4)Study tour

☐ good ☐ fair ☐ poor

5) What subject / topic would you need more after you returned ?

_____

_____

_____

3-2. Others (If any)

_____

_____

_____

4. POST-TRAINING SERVICES FOR THE EX-PARTICIPANTS

4-1 JICA gives the following services as follow-up for the ex-participants.

1. A service, in which JICA dispatches the follow-up team to find out technical needs.
2. A service, in which JICA provides the ex-participants with the technical information and literature.
3. A service, in which JICA mails out the magazine named "KENSHUIN" to the ex-participants for five years.
4. A service, in which JICA assists the ex-participants in organizing and operating JICA Alumni Association.

If you have any opinion or request, please specify.

_____

_____

_____

_____

_____

4-2. Are you in contact with any Japanese organization, people to obtain current technical information, etc.? If yes, please specify the contact organization or person.

_____

_____

_____

_____

4-3. How many candidates are there suitable for the course for Drug Abuse Prevention Activities at your organization ?

_____

4-4. OTHER COMMENTS (If any)

_____

_____

_____

_____

_____

_____

Thank you for your cooperation.

QUESTIONNAIRE (2)
(to be filled up by supervisor of ex-participants)

To the Ex-Participants of the Group Training Course In Drug Abuse Prevention Activities at Japan International Cooperation Agency (JICA)

The follow-up team would like to ask you some questions in regards to the training course in Drug Abuse Prevention Activities in Japan. The information from this survey will be utilized to improve the training course in the future. Your cooperation will be highly appreciated.

1. Outline of your institution

   a) Name and Address of Head Office:_____

   _____

   _____

   b) Year of Establishment:

   c) Number of Employees:

2. Type of your institution (Please tick one)

   a) Governmental ☐

   b) Semi-governmental ☐

   c) Private ☐

   d) Others ☐

3. What are criteria to select candidate(s) for this course ?

   ☐ age ☐ educational background ☐ experience ☐ others

4. Did you receive any written report on the training from the course participant Whom you sent to Japan ?

   ☐ Yes ☐ No

5. How does your office evaluate the training course ?
   Please tick one.

   Very beneficial to my office ☐
   Fairly beneficial to my office ☐
   Not so beneficial to my office ☐

   Please describe what benefits they are.

   _____

   _____

6. Did the ex-participants receive any specific privileges like salary raise, promotion etc.?

   ☐ Yes ☐ No

7. Were the ex-participants given any duties or bond after returning from Japan ?

   ☐ Yes ☐ No

8. Please give us your comments / suggestions to improve upon the training course in the future.

   _____

   _____

   _____

   _____

Thank you for your kind cooperation

３．質問表に対する回答集計（帰国研修員）

カンボディア帰国研修員質問表回答者

氏名	現所属先	研修参加年度
Mr. Ty Kim Suor	Essential Drugs Bureau of Department of Department of Drug and Food, Ministry of Health	1998
Ms. Tea Kim Chha	Department of Drug and Food, Ministry of Health	1999

帰国研修員に対する質問表集計

１－　一般質問

１－５．　現在も薬物乱用防止の分野に従事していますか。

いいえ：２名

１－８．　本研修に参加したことにより、昇進しましたか。

はい：２名

１－９．　現在直面している問題は何ですか。

・研修終了後、自国にて当該分野のユニットを設立したいが、関連団体のどこからも、資金的・技術的サポートが得られない。

２－　研修コースについて

２－１．　研修は出身国での仕事に有益でしたか。

大変有益だった	まあまあ有益だった	全然有益でなかった
1		

無回答：１名

２－２．　研修で得たものを普及させる機会がありましたか。

はい：１名　　いいえ：１名

それはどんな人たちにですか。

○セミナー参加者　○ワークショップ参加者　○研修を行って

普及される機会を作ったのは誰ですか。

UNDCL, NACD, POLICE OF DEFENSE

２－３．　具体的に、研修で最も役に立ったプログラムは何でしたか。

・施設見学－キャラバンカー、メディア、キャンペーンなどを通しての人々への啓発活動。

・教育現場での啓発活動

２－４．　研修に参加することになった過程を教えてください。

１）所属部内での選考方法

・National Drug use coordination unit で働いていたことを評価され、選ばれた。

・自分の前歴を評価された。

２）研修のことをどうやって知りましたか。

・JICA カンボディア事務所が保健省と Department of Drugs and Food にコースインフォメーションと要請書を送ってきたので。（２名）

２－５．　研修に参加することに関して実際認可権を持っていたのは誰ですか。

・Former imdes secretary of State for Health

・Director General for Health

２－６．　研修に応募する手順で、なにか問題はありましたか。（全員「いいえ」）

２－７．　国内外で、同研修内容と同様な研修に参加したことがありますか。

いいえ：２名

３－　日本の集団研修コースの改善について

３－１．　下記の各項目について、あなたが参加した研修コースの将来的改善のためにご意見を聞かせて下さい。

１）期間

長すぎる	ちょうど良い	短すぎる
	2	

２）講義

	良い	普通	悪い
講義	2		
テキスト	2		
参考資料	2		

３）実習（当てはまるものがあれば）

	良い	普通	悪い
インストラクター	2		
設備	2		
備品	2		
教材・材料	2		

５）帰国後、どんな教科、物をあなたは必要としていますか。

・教育・メディアを通してのキャンペーン

・医療現場における適正な薬物使用

４－　帰国研修員に対するフォローアップサービスについて

４－１．　何か意見やリクエストはありますか

いいえ：２名

４－２．　最新の技術の関する情報を得るために日本の団体や人物とコンタクトをとり続けていますか。

いいえ：２名

４－３．　所属部署には「薬物乱用防止啓発活動（日米協力）」コースに参加するに適していると思われる人物は何名ほどいますか。

数名ほど

４－４．　その他コメントがあれば

Department of Drugs and Food 内に薬物乱用防止活動を発足させるための技術的・金銭的なサポートを JICA にして欲しい。

（２名）

帰国研修員所属先に対する質問表集計

所属先機関名	タイプ
Department of Drugs & Food	Governmental

３．研修応募者選定の際の基準はなんですか

学歴、経験

４．研修参加研修員からコースについてのレポートを提出されましたか。

はい

５．研修コースをどのように評価しますか

良い

なにが有益でしたか

・多くの経験を積めたこと

・日本と同分野において協力できたこと

6．帰国研修員は研修に参加したことにより、何らかの昇進・昇給などはありますか。

いいえ

7．帰国研修員は研修に参加したことにより、何か新しい職務をおいましたか。

いいえ

8．今後のコースの参考となるようなコメント・提案がありますか。

いまだに薬物乱用防止啓発活動に係るユニットの設立が果たせていないので、
帰国研修員をもう一度、セミナーに参加させたい。

マレイシア帰国研修員質問表回答者

氏名	現所属先	研修参加年度
Mr. Nik Mohamed Bin Dauo	Tentera Rakyat Malaysia	1995
Mr. Izhar Bin Abu Talib	National Drug Agency, Ministry of Home Affairs	1996
Ms. Sharifah Ainit Syed Bad	Women Drug Rehab Centre	1999
Mr. Abdullah B-MD-Nor	Persatuan Pengsih Malaysia	2000

帰国研修員に対する質問表集計

１－　一般質問

１－５．　現在も薬物乱用防止の分野に従事していますか。

はい：３名　　いいえ：１名

１－８．　本研修に参加したことにより、昇進しましたか。

はい：１名　　いいえ：２名　　わからない：１名

１－９．　現在直面している問題は何ですか。

・限られた予算内で運営していかなければならないという以外は今までのところ、問題なし。

・時間的束縛と分野未経験のスタッフ

・中毒患者の再犯率は高く、本当に薬物を断ち切るには患者自身の意志か最も重要である。にもかかわらず、リハビリセンターにやってくる中毒患者の大半は自らの意志

２－　研修コースについて

２－１．　研修は出身国での仕事に有益でしたか。

大変有益だった	まあまあ有益だった	全然有益でなかった
1	3	

どのように有益（或いは有益でない）でしたか。

・研修で得た知識、経験などは、所属団体が徐々に取り込んでいこうとしているものと融合できる。

・他の国がどのようにして薬物乱用防止活動を行っているのか学べた。

・自分の経験を他の研修員と分かち合えた。

・所属組織の拡大や、リハビリのプログラミング、薬物防止啓発活動について学べた。

２－２．　研修で得たものを普及させる機会がありましたか。

はい：３名　　いいえ：１名

それはどんな人たちにですか。

〇同僚（３名）　〇ワークショップ参加者　〇セミナーを行って

普及される機会を作ったのは誰ですか。

学校や、他の公的機関。政府や NGO、リハビリセンターへの訪問者。

２－３．　具体的に、研修で最も役に立ったプログラムは何でしたか。

・地域に根ざしたプログラム（学校教育や、国民への啓発活動、もと中毒患者への再犯防止強化活動など）

・病院訪問。薬物乱用防止キャンペーン。ワークショップ。精神病院訪問。研修旅行。

・アジアの他国の研修員がどのように薬物乱用防止啓発活動を行っているかを紹介されたこと。

２－４．　研修に参加することになった過程を教えてください。

１）所属部内での選考方法

・上司に推薦された。（２名）

・会議の席で。

・ランダムに

２）研修のことをどうやって知りましたか。

・所属機関内の回覧で（２名）

・JICA からの招待状で

・研修に参加するよう上司から告げられたときに JICA の研修の存在を知った。

２－５．　研修に参加することに関して実際認可権を持っていたのは誰ですか。

・Director　General　of　the　DNA からの推薦状をもとにマレイシア政府が認可した。

・Director　General

・局長、役員。（２名）

２－６．　研修に応募する手順で、なにか問題はありましたか。

いいえ：全員

２－７．　国内外で、同研修内容と同様な研修に参加したことがありますか。

はい：１名　　いいえ：３名

コース名	期間	実施場所	実施者
Policy Analysis for Control of HIV and AIDS	11 days	Chulalonskorn, University	Ministry of Health
Daytop Substance Abuse Intern Training program	5 months	U.S.A.	Daytop
Residental After Care Program	3 months	Pertapis Singapore	Pengasih

３－　日本の集団研修コースの改善について

３－１．　下記の各項目について、あなたが参加した研修コースの将来的改善のためにご意見を聞かせて下さい。

１）期間

長すぎる	ちょうど良い	短すぎる
	4	

２）講義

	良い	普通	悪い
講義	3	1	
テキスト	4		
参考資料	4		

３）実習（当てはまるものがあれば）

	良い	普通	悪い
インストラクター	4		
設備	4		
備品	3	1	
教材・材料	4		

４）研修旅行

大変良い：４名

５）帰国後、どんな教科、物をあなたは必要としていますか。

・リハビリテーションに関わる教科、設備。

・薬物使用者に対する危機干渉と、いかに治療に関するプログラムに患者が救いを求めるか。

３－２．　その他

・国民や中毒患者に対する教育についての情報や、家庭内での教育に対する情報を学びたい。

４－　帰国研修員に対するフォローアップサービスについて

４－１．　なにか意見やリクエストはありますか

いいえ：１名

・帰国研修員がアクセスできるサービスについての情報が欠けている。

・帰国研修員に対するより高度なコースの提供。

・“KENSHUIN”という雑誌が送られてきて、それはとても役に立った。もっとたくさんの冊子を JICA　から受け取りたい。

４－２．　最新の技術の関する情報を得るために日本の団体や人物とコンタクトをとり続けていますか。

いいえ：４名

・今現在、日本の組織や人々とコンタクトをとるのは不可能だが、できることならコンタクトをとれるようになりたい。

４－３．　所属部署には「薬物乱用防止啓発活動（日米協力）」コースに参加するに適していると思われる人物は何名ほどいますか。

・最低でも５名ほど

・３名

・１５名ほど

・わからない。

４－４．　その他コメントがあれば

・マレイシアにスタディチームが来るのは歓迎

・全ての講師が英語でコミュニケーションをとれれば、研修はもっと固化的であっただろう。

・JICA での研修は自分のキャリアに新しい経験を与え、とても役に立っている。この経験を自分の知り合いなどにも広めていくつもりである。もし、２度目のチャンスがあるのなら、是非参加したい。

帰国研修員所属先に対する質問表集計

所属先機関名	タイプ
National Drugs Agency, Ministry of Home Affairs	Governmental
Persatuan Pengasih Malaysia	NGO

３．研修応募者選定の際の基準はなんですか

年齢（１）

学歴（１）

経験（２）

その他（１）

４．研修参加研修員からコースについてのレポートを提出されましたか。

はい：２

５．研修コースをどのように評価しますか

良い：２

なにが有益でしたか

・乱用防止に関する様々な要素を学び、マレイシアの乱用防止プログラムに取り入れることができた。

・自分の機関においてとても啓蒙的であった。

６．帰国研修員は研修に参加したことにより、何らかの昇進・昇給などはありますか。

はい：１　　いいえ：１

７．帰国研修員は研修に参加したことにより、何か新しい職務をおいましたか。

はい：２

８．今後のコースの参考となるようなコメント・提案がありますか。

・地域における再発防止プログラムや理論を紹介して欲しい。

・講義を全て英語で行うようにして欲しい。

４．セミナープログラム

Seminar For Drug Abuse Prevention Activities in Cambodia

P R O G R A M
September 7, 2001

9:00-9:15	Seminar Registration
9:15-9:30	Greetings From Prof. Eng Houut. Director General for Health
9:30-9:35	Introduction
9:35-10:35	Presentation: What is Prevention for Drug Abuse by Prof. Hidehiko Takahashi, Tohoku University Of Community Service
10:35-10:45	Coffee Break
10:45-11:45	Presentation: How regulatory control works in prevention for drug abuse through Japanese experiences by Mr. Yujiro Oki, Technical Officer, Compliance and Narcotics Division, Ministry of Health, Labor and Welfare
11:45-12:30	Question And Answer Portion

Seminar For Drug Abuse Prevention Activities in Malaysia

P R O G R A M
September 12, 2001

9:00-9:15	Seminar Registration
9:15-9:25	Opening Address by Mr. Toshio Hida, JICA Resident Representative, Malaysia
9:25-9:30	Introduction
9:30-10:30	Presentation: What is Prevention for Drug Abuse by Prof. Hidehiko Takahashi, Tohoku University Of Community Service
10:30-10:45	Coffee Break
10:45-11:30	Presentation: Actual Situation In Malaysia by Mr. Fadzillah Hussain, Principal Assistant Director for Prevention, National Drugs Agency, Malaysia
11:45-12:30	Presentation: How regulatory control works in prevention for drug abuse through Japanese experiences by Mr. Yujiro Oki, Technical Officer, Compliance and Narcotics Division, Ministry of Health, Labor and Welfare
12:30-12:50	Question And Answer Portion

５．セミナー出席者

カンボディア（September 7, 2001）

No	Full Name	Position
1	Dr. Po. Eng Huot	Director General for Health
2	RH Chou Yin Sim	Deputy Director OGS
3	Dr. RH Chroeng Sokham	DDF
4	Dr. RH Tea Kimhay	Deputy Director of Department of Drug and Food
5	Dr.Rh Chieng Phan	Department of Drug and Food
6	Rh Heng Huot	Department of Drug and Food
7	Rh Voeung imY Heang	Department of Drug and Food
8	Dr. Chy Mean Hear	Department of Hospital Service
9	Dr. Pak Pise Rainsey	PMD
10	Dr. Kar Sun	UHJ
11	Rh Ty Kim Suor	Deputy Director of Essential Drugs Bureau Department of Drug and Food
12	Rh Ouch Sam	
13	Rh Kim Saroeun	EDB & Information of RDU Unit
14	Duong Dary	Essential Drug Bureau
15	Dr. Mao Sontha	Chief Technical Officer
16	Dr. Preah Kossomak	Hopp
17	Ph. Liv Hory	Calmate Hospital
18	Dr. Meas ok Kar Pich	

マレイシア（September 12, 2001）

No	Full Name	Position	Address
1	MD Razie Wan	Assistant Director NDA	Aqersi dasah Kebargsaan KDN Puirajaya
2	Raja Elina Aziddin	Head Drug & Research Lab	HEI Zjabatoin Patoby Hosp. K.1
3	Basmiall MD Isa	Pharmasist	Bird Pengawanan Primaseutikal Kebawgsaan
4	Norhayati Hanafiau	〃	〃
5	Ruhaini Zawawi	Assistant Director	Adu Seloger, Tighat B Bgn Perselwtoem Sel
6	Shonewl Zohonesim	Leg Kmuleler Tedol	AKE WRML

7	Hauiff Ta	Social Worker	Persafuan Pengasih Malaysia
8	Ishale Mehd wSh	Sfade Drecher	National Drug Agency of Pohang
9	Sohaimi Amad	Coordinator Program	Persafuan Pengasih Malaysia
10	N. Sasidharan	Assistant Director	ADK
11	En. Harith Facbzillah	Senior Assistant Director	ADK
12	Sharifah Aini Syed Bab	Commandant	Pusat Serenti (Wanita) Kemumin Kementerian Dacam Negri, 16100 Pengicalan Chepa Kelantan
13	Zainam BT Johavi	ADK Negein Selauyer	ADK Negein Selauyer
14	Siti Ai de Abdulre	Principal Assistant Director	Reg Ferneri KKM
15	Dr. Liur Lumie	Pharm. Sinzr	Min. of Health, Deputy Director
16	Mbr Wuhi Olhuau	Project Manager	PENGASIH
17	Izhar Abu Talib	NDA Putrajaya	NDA Ministry of Home Affair, Putrajaya
18	Abdulkilr Md Nor	Director	PENGASIH

６．セミナーレジュメ

Lecture Notes

Hidehiko Takahashi

Prologue : What is Prevention

1. Objectives

A. To provide basic information on prevention
B. To provide information on preventive activities refering some examples of actual programmes.
C. To provide information on problems faced by those programmes at planning and implementing stage.
D. To share information and opinions regarding further development of programmes.

2. Definition of Target – Fact finding –

A. Classification of target groups
- Classification by various background in family, community, school, working place, etc.
- Classification of affected groups and innocent groups.

B. Understanding of possible motivation
- Such as individual factors like peer pressure, curiosity, stress etc. and social elements such as moral decay, economic uneasiness, etc.

3. Organizations/Individual who take multifaceted substancial parts.

A. Definition of major parts
B. Definition of members : based on above A.
   Government
      Central and Local (Including law enforcement agencies)
   Family (Parents as well as all family members)
   Community
   Various organizations and institutes (Including NGO)
   School and University
   Media (Including printed and electrical)
   Industry (Including employers)
C. Involvement of leaders
- Importance of getting understanding of leaders in different levels/fields expecting their leadership. –Why and How to get-
- Importance of obtaining ‘priority’ in country can be a key word. –Why and How to obtain-

4. Programming – Stragetic approach

A. Preparation

- Comprehension of nature of problems to tackle with such as
  -Types of existing problems
  -Types of required information
  -Types of desired message
  -Areas to be covered
  -Segmentation of target groupes
- Selection of types of messages based on definition of target groups.
- Selection of information based on definition of target groups.
- For above messages and information, combination of simple, strong words and understandable scientific explanations are required.
- Selection of methods
  -For schools, whether in or out of curriculum.
  -For community, community outreach and community involvement, such as organizing gathering, seminar and workshop
  -Media involvement
- Selection of executing organizations/individuals
- Selection of materials
- Selection of equipments
- Consideration on social and cultural background
- Financial arrangement

5. Implementation

A. Development of materials

- Important elements
  Clear, credible, attractive
- Kinds of materials
  Poster, booklet, signboard, TV/radio spot and drama, advertisement in newspapers and magazines, Comics are recomendable.
- Audiovisual purposes, animation/cartoon type materials can be recomendable
- Also audiovisual purposes, as well as gathering, presence of socially influential person (especially to the youth) is considered useful as deliverer of messages

B. Development of equipment

Related to development of materials necessary equipment are identified (please refer to a later chapter)

C. Execution

Appropriate execution by suitable organizations and individuals are required (please refer to a

later chapter)

D. Assesment

Result of assesment can be treasure for future development.

Assesment will be carried out on the following matters:

-Resources –adequate? Properly used?

-Information – applicable? Enough?

-Effectiveness – sufficient?

5. Obstacles

A. Shortage of resources

- Human resources to deliver messages as well as to inform properly.
- Financial resources for programming and implimenting.

B. Shortage of knowledge

- Knowledge to develop the programme
- Knowledge to explain scientific reasons

C Difficulties In community to get collaboration

7 Ideas on Recommendation

A On issues listed in above '6'

- To develop training programme at various levels
- To promote International corperation (financial and technical assistance)
- To involve Leaders as started before (government leaders for budgetary arrangement and community leaders for sponsorship)

B Additional ideas

- Combination of multifaceted activities
- Generally observed, Influence of mass media, especially that of electrical media Is powerful and prompt. However the result of assesment on usage of electric media is still vague. On the other hand steady community based activities can be evaluated clearly. On this regard the followings are recommendable.

  -Combination of media involvement and community based programmes

  -Among community based programmes traditional performances can be included.

  -For media involvement, especially considering Its strong influence, I should give out appropriate information. For this purpose media seminar is recommended.
- Special recommendation

  -Mobile van for awareness activity

  For community outreach, It Is one of useful equipment. The van can be used for awareness as well as counseling covering a certain area. Loaded equipment on the van are film projector, TV, video set, electric generator and large screen. Also counseling

table and chair may be installed.

-Multi purposed mobile camp.

The camp is organized mainly for treatment, rehabilitation and counseling. However, it can be utilized for education/awareness activities. The camp project is consisted by staffs such as doctors, paramedical staffs, social workers and equipment such as vehicles, tents, medical equipment as well as education/awareness goods.

Epilogue : Message to our future generation.

How regulatory control works in prevention for drug abuse through Japanese experiences

By Y. Oki Mr
Chief
Narcotics Section
Compliance and Narcotics Division
Pharmaceutical and Medical Safety Bureau
Ministry of Health, Lobour and Welfare (MHLW)
Government of Japan

1. Strategy

- Supply reduction
- Demand reduction

Primary prevention

Secondary prevention

Prevention

e.g. General public information

Education campaign

＊ Function of regulatory control in prevention

Discouraging the initiation of drug use

preventing the progression to more frequent or regular use among high risk populations

2. Japanese history of drug abuse and its countermeasure

550,000 were estimated as stimulants abusers around 1954.

its countermeasure

40,000 were estimated as heroin abusers around 1960

its countermeasure

Current situation

Profile of stimulant users

3. Japanese Regulations

Purpose: preventing damage of drug abuse to the public health

eradicating drug abuse and illegal distribution of drugs

1) The Narcotics and Psychotropics Control Law

2) The Opium Law

3) The Cannabis Control Law

4) The Stimulants Control Law

5) The Law Concerning Special Provisions for the Narcotics and Psychotropics Control Law and Other Matters for the Prevention of Activities Involving Controlled Substances through International Cooperation (Law on Special Provisions for Narcotics).

6) Mental Health Law

all of above regulations are under the Ministry of Health, Labour and welfare

Character of Japanese regulations

Punishment for drug users

Maximum 10years imprisonment

Number of Recidivists for Stimulant Offenses, by Year

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
Total Number Arrested	15,267	16,330	15,311	15,495	14,896	17,364	19,666	19,937	17,084
Recidivists	8,626	9,157	8,278	8,027	7,881	8,547	9,372	9,328	8,387
Percent	56.5%	56.1%	54.1%	51.8%	52.9%	49.2%	47.7%	46.8%	49.1%

4. Function of the Government

Headquarters for Countermeasures against Drug Abuse

the Prime Minister's Office → 1970

upgraded as consisting of related Cabinet Ministers

headed by the Prime Minister → 1997

Allocated role

Treatment of drug dependents → the Ministry of Health, Labour and Welfare (MHHW)

Consultation Services and Mental Health and Welfare Centers

corrective training → the Ministry of Justice

school education → the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

campaign and publicity → the Prime Minister's Office

MHLW

law enforcement → the National Police Agency

the Regional Narcotic Control Divisions

(Ministry of Health, Labour and Welfare)

the Coast Guard

(the Ministry of Public Management, Home Affairs, Posts and Telecommunications)

Customs (the Ministry of Finance)

Local Headquarters for Countermeasures against Drug Abuse

with 47 local governments

７．調査期間中に相手国に提出した中間報告書

SUMMARY REPORT

BY

Study Team for Drug Abuse Prevention Activities

(Asian Region in Collaboration with U.S. Government)

Cambodia

INDEX

1. BACKGROUND
2. OBJECTIVE
3. PERIOD
4. MEMBERS
5. SCHEDULE OF THE STUDY TEAM
6. INSTITUTIONS WHERE THE STUDY TEAM VISITED
7. SUMMARY REPORT
8. THE PERSON WHO THE STUDY TEAM MET

1. Background

With its background as one of the common agenda for the Japan-US framework Talks in 1993, the annual training course to develop the human resources " Drug Abuse Prevention Activities (Asian Region in Collaboration with U.S. Government)" has been conducted since 1995. The course is designed to introduce to the participants planning and implementing of drug abuse prevention programme and several activities conducted by US and Japanese government, NGOs, and volunteers. Two from Ministry of Health, Cambodia were participated the training course in 1999 and 2000.

2. Objective

The objectives of this team were as follows:

(1) To evaluate the said training course by consulting with relevant organization and ex-participants how the result of the training is applied and has affected the concerned field areas in Cambodia

(2) To improve JICA's future training program in the field of Drug Abuse Prevention Activities

(3) To conduct one day seminar to follow up the JICA training course " Drug Abuse Prevention Activities for the ex-participants and relevant people in charge of the matter

(4) To find out the possibility to develop the similar training course out of Japan

3. Period

From September 5 - 7, 2001

4. Members

(1) Prof, Hidehiko TAKAHASHI (Team Leader)
Professor, Tohoku University of Community and Science

(2) Mr. Yujiro OKI (Technical Conductor)
Chief of Narcotics section, Compliance and narcotics Division, Pharmaceutical and medical Safety Bureau, Ministry of Health, Labor and Welfare

(3) Ms. Hiromi SAWADA (Training Planning)
Officer, Training Division, Hachioji International Training Center, JICA

5. Schedule

Sep. 5, Wed.	08:00	Meeting with JICA Cambodia Office
	09:00	Courtesy Call to Embassy of Japan

	10:00	Meeting with Council for Development of Cambodia and Mr. ADACHI, JICA Expert
	14:00	Meeting with Ministry of Health
	15:00	Interview with Ex-participants of the Training Course
Sep. 6, Thu.	08:00	Meeting with JICA Cambodia Office
	14:00	Meeting with Department of Health, Municipality of Phnom Penh
	16:00	Meeting with National Authority of Combating Drugs
Sep. 7, Fri.	09:00	Seminar for Drug Abuse Prevention Activities
	12:00	Reception hosted by the Team
	14:00	Meeting with UNDCP Liaison office
	16:00	Report to JICA Cambodia Office

6. Institutions where the mission visited

1)Council for Development of Cambodia (CDC)

2) The Ministry of Health(MOH)

3) Department of Health, Municipality of Phnom Penh

4) National Authority of Combating Drugs(NACD)

5) United Nations Office for Drug Control and Crime Prevention(UNODCP)

Meeting with JICA Cambodia Office
Courtesy Call to Embassy of Japan

7. Summary of finding

The study team visited 5 relevant organizations, 4 being governmental and 1 being United Nations and met a number of senior officials in charge of the matter. They provided the most updated information about the current drug abuse situations and on going programmes relating the field in Cambodia. They also provided a number of constructive comments and advice about the JICA training course. Department of Health, Municipality of Phnom Penh has shown their great interest to participated the said training course. When the study team visited UNODCP office to harmonize on going drug abuse prevention activities, it was suggested to build a close cooperation among relevant organizations in the field to avoid duplicated activities not waist human resources and finance.

Evaluation was made through consultation with ex-participants, their ministry and other governmental organizations. The ex-participants expressed their appreciation to Japanese government and JICA for giving them a good opportunity to receive training in Japan. They were still working in Department of Drugs and Food,

in the field of controlling licit drug. One of their main roll were to implement rational drug use targeting pharmaceutical retailer, they developed their dissemination to provide the appropriate knowledge against not only licit but also illicit drug such as opiate or methanphatamine through educational material e.g. poster/calendar or information dessimination through workshop in provinces as part of drug abuse prevention activities. It was successful method to utilize opportunity and limited human resources to provide appropriate knowledge of drug abuse prevention.

Regarding development of the said training course, a number of comment were made such as continuous invitation of, or multiple participant were considered to develop human resources in the field, technical and financial support for the national workshop of drug abuse prevention to utilize ex-participants by CDC. It was noted that interest of NACD was to expand the ability of drug abuse prevention activities on not only primary prevention but also to built a drug rehabilitation center.

The team held a seminar on 7 September 2001 at the Department of Food and Drug, Ministry of Health. Among the seminar, there were 15 participants, including 2 ex-participants of the said training course and rest were their colleagues from the Ministry of Health. Among the participants, various information and technique of drug abuse prevention were updated through the seminar. There were active opinion /ideas exchange on present activities. Especially emphasized the importance of involvement of relevant community readers to convey accurate knowledge and to built appropriate social norm to drug abuse. There were ceaseless questions by participants about drug abuse prevention measures. Very active and frank exchange of views was made about the current situation and future direction of the drug abuse prevention between Cambodia and Japan. All the questions and comments were very relevant, demonstrating the knowledge and experience of the participants.

With regard to hold the training course out of Japan, CDC suggested it to conduct the regional training course among Cambodia, Vietnam, Lao PDR and Myanmar. Among them, there were similarities in their situation of economic, social, cultural background and drug abuse. The suggested regional training course must be helpful to tackle difficulties and constrains through sharing information and experiences. In addition, priority was given to the programme “drug abuse prevention” because it was one of ASEAN’s common agenda.

8. The person who the study team met

1) Council for Development of Cambodia

Mr. Leaph Vannden, Deputy Secretary General

Ms. Heng Sokun, Director, Bilateral Ard Coordinate Department

Ms. Phana Veunida, staff, Bilateral Ard Coordinate Department

2) The Ministry of Health

Prof. Eng Huot, Director General for Health

Dr. Tea Kim Chhay, Deputy Director, Department of Drugs, Food, Medical materials and Cosmetics

Ph. Ty Kim Suor, Deputy Chief of Essential Drugs Bureau, Rational use of Drugs coordination unit, Department of Drugs and Food

3) Department of Health, Municipality of Phnom Penh

Dr. Veng Thai, Director, Health Department

Mr. Yim Yann, Chief, Drug Office, Health Department

4) National Authority of Combating Drugs

Mr. Meas Samith, Director, International Cooperation Department

5) United Nations Office for Drug Control and Crime Prevention

Mr. Graham Shaw, International Programme Officer, Regional Centre for East Asia and the Pacific Liaison Office

Mr. Sovann Tith, National Programme Officer, Regional Centre for East Asia and the Pacific Liaison Office

SUMMARY REPORT

BY

Study Team for Drug Abuse Prevention Activities

(Asian Region in Collaboration with U.S. Government)

Malaysia

INDEX

1. BACKGROUND
2. OBJECTIVE
3. PERIOD
4. MEMBERS
5. SCHEDULE OF THE STUDY TEAM
6. INSTITUTIONS WHERE THE STUDY TEAM VISITED
7. SUMMARY REPORT
8. THE PERSON WHO THE STUDY TEAM MET

1. Background

With its background as one of the common agenda for the global development programme between U.S. and Japan in 1993, the annual training course to develop the human resources " Drug Abuse Prevention Activities (Asian Region in Collaboration with U.S. Government)" has been conducted since 1995. The course is designed to introduce to the participants planning and implementing of drug abuse prevention programme and several activities conducted by US and Japanese government, NGOs, and volunteers. There were 6 participants past, 5 from National Drug Agency and other from NGO.

2. Objective

The objectives of this team were as follows:

(1) To conduct one day seminar to follow up the JICA training course " Drug Abuse Prevention Activities for the ex-participants and relevant people in charge of the matter

(2) To evaluate the said training course by consulting with relevant organization and ex-participants how the result of the training is applied and has affected the concerned field areas in Cambodia

(3) To improve JICA's future training program in the field of Drug Abuse Prevention Activities

(4) To find out the possibility to conduct the similar training course out of Japan

3. Period

From September 10 - 12, 2001

4. Members

(1) Prof, Hidehiko TAKAHASHI (Team Leader)
Professor, Tohoku University of Community and Science

(2) Mr. Yujiro OKI (Technical Conductor)
Chief of Narcotics section, Compliance and narcotics Division, Pharmaceutical and medical Safety Bureau, Ministry of Health, Labor and Welfare

(3) Ms. Hiromi SAWADA (Training Planning)
Officer, Training Division, Hachioji International Training Center, JICA

5. Schedule

Sep. 10 Mon.	09:30	Meeting with JICA Malaysia Office
	10:30	Discussion with Pharmaceutical Services Division, Ministry

		of Health
	14:30	Preparation for Seminar
Sep. 11 Tue.	09:30	Discussion with National Drug Agency, Ministry of Home Affairs
	11:00	Meeting with ex-participants, National Drug Agency, Ministry of Home Affairs
	12:30	Reception hosted by National Drugs Agency
	14:30	Discussion with Persatuan PENGASIH
	15:30	Meeting with ex-participant, Persatuan PENGASIH
Sep. 12, Fri.	09:00	Seminar for Drug Abuse Prevention Activities
	12:30	Reception hosted by the Team
	15:00	Report to Embassy of Japan
	16:00	Report to JICA Malaysia Office

6. Institutions where the study team visited

1) Pharmaceutical Services Division, Ministry of Health
2) National Drug Agency (NDA), Ministry of Home Affairs
3) Persatuan PENGASIH

Meeting with JICA Cambodia Office
Courtesy Call to Embassy of Japan

7.Summary of finding

The study team visited 3 relevant organizations mentioned above, 2 being governmental and 1 being nongovernmental organization mainly dealing rehabilitation. The team met a number of senior officials and the people of the NGO in charge of the matter. They provided the most updated information about the current drug abuse situations and on going programmes relating to drug abuse prevention activities in Malaysia. They also provided a number of constructive comments and advice about the JICA training course. Pharmaceutical Services Division, Ministry of Health has been involved in primary prevention of drug through information dessimination or school education activities, they showed their great interest to participate the said training course to contribute more active drug abuse prevention activities in Malaysia. They also showed their great interest in prevention of psychotropic abuse prevention in Japan.

Evaluation was made mainly through consultation with ex-participants, their organizations and other nongovernmental organizations. The three out of five ex-participants from National Drug Agency (NDA) and NGO’s ex-participant were

available to join the evaluation of said course. Those who participated were still working the poison relating to drug abuse prevention. Their comments to participate the course were positive as follows: helpful in planning and organizing the drug abuse prevention activities in Malaysia, the knowledge acquired in the training course was useful enough to share with their fellows and colleagues in their job, useful when they delivered the presentations for such a drug abuse prevention seminar/educational campaign after their return. All of them showed their great interest to develop the knowledge about ATS preventions and its rehabilitation method because recently amphetamine type stimulants (ATS) problems, particularly Ecstasy has been prevalent in Malaysia recently. They likewise mentioned the usefulness of field trip such as to visit psychiatric ward to observe the rehabilitation system or exposed to various drug abuse prevention activities in Japan.

Regarding development of the said training course, a number of request were made to develop the knowledge and countermeasure of emerging ATS problems such as ATS pharmacological action, its method for treatment and rehabilitation, analysis technique. They also showed their interest to hold national drug abuse prevention workshop targeting the states staff of Malaysia.

The seminar was held with 20 participants from 3 organizations where the team visited. Following the opening speech by Mr. Hida, JICA Resident Representative, Prof, takahashi input the updated knowledge of drug prevention applied to Malaysia Then Mr. Harith from NDA presented the drug abuse prevention activities in Malaysia. Then Mr. Oki presented the Japanese measures against drug compared with Malaysia. There were active opinion /views exchange on present drug abuse situations and its countermeasures to deepen the mutual understanding of each countries.

With regard to hold the training course out of Japan, Ex-participants suggested it to conduct the regional training course among Philippines, Thailand, Singapore, and Indonesia because of its similarity in rather advanced drug abuse prevention activities among them.

8. The person who the study team met

1) Pharmaceutical Services Division, Ministry of Health
   Mr. Mohd Zin Che Awang, Director
   Dr. Lai Lin Swee, Deputy Director
   Mr. Shi Aide Abdullal, Principal Assistant Director
   Dr. Noral Ashikin Tahya, Medical officer

Dr. Zakiah Ismail, Head of Specialized Diagnosic Centre & Heiloal Medicine Research Centre

Dr. Hia Hi Mhip, TPPF(K)

2) National Drug Agency, Ministry of Home Affairs

Mr. Wan Ibrahim Bin Wan Ahmad, Deputy Director General

Mr. Harith Fadhilah, Chief Assistant Director(Prevention)

Mr. N. Sasidharan, Assistant Director

Mr. Abd. Rashid Mat Adam, Director for Prevention, Planning & Research

Ms. K Hor Phaik EE, Assistant Director(Work Place)

Mr. K Hor B. Azu Talib, Assistant Director(Field Unit)

Ms. Savithri Devi, Assistant Director(International)

Ex-participant:

Mr. Izhar Abu Talib, Assistant Director, Field Service Unit

Mr. Ishak Mohd Salleh, Director, NDA Pahong

Ms. Sharifah Aini Syed Bab, Commandant

3) Persatuan PENGASIH

Mr. Mohd Yunus Pathi, President

Mr. Khairuddin Mahmud, Assistant Hon. Treasurer

Ex-participant: Mr. Abdullah Md Nor